



## 謹んで新春の

## ご祝詞を申し上げます

特定非営利活動法人

通院介護センター「さわやか」

理事長 山田 浩美

皆様におかれましては、旧年中は大変お世話になり、有難うございました。

「さわやか」新聞での新年のご挨拶は、十六回目となります。これも皆さまのご支援のお陰だと感謝申し上げます。

昨年三月十一日の東日本大震災では私たち障害を持つ者にも多くの教訓を残してもらいました。ただ、その代償は余りにも尊く、大きなものでした。

しかし、いろいろな情報のなかで、前向きに進んで行こうとする被災者の方々の姿を拝見させていただいておりますと、逆に私たちが元氣と勇氣をもらいました。更に私たちの出来る支援を続けて行きたいと思っております。

北九州市は昨年十二月に（仮称）北九州市障害者支援計画の素案を打出してきました。その計画の基本理念として

「障害の有無にかかわらず、すべての市民が、互いの人格や個性を尊重し合いながら、安心していきいきと暮らすことのできる共生のまちづくり」

障害があっても一人の市民として自分らしく生活できる地域社会の実現とあります。その中の添え書きに、「障害のある人の立場になることは誰

にもありえることです。市民、企業や事業者、行政などが自らの課題として障害を認識し、それぞれが連携・協力して、自らの責任と役割を果たしていくことが重要で」と書かれています。

「さわやか」もその計画の中のほんの一端ですが、「福祉有償運送」の事業者として、その責任と役割を果たして行きたいと思っております。

今年も「さわやか」事務局一同「なでしこジャパン」のように行きますませんが、何事もあきらめず前向きに頑張つて行きたいと思っております。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を

よろしくお願いいたします。

皆様にとりまして良き一年となりますように、心より

お祈りいたします。



## 思いおこせば・・・懐かしくもあり

特定非営利活動法人

通院送迎支援センター（サービス）ふれあい

副理事長 富崎 忠博



「さわやか」新聞読者の皆様二十二年明けましておめでとうございます。ボランティアさん始め「さわやか」関係各位の皆様には心静かなよい年をお迎えのこととお祝い申し上げます。

昨年十一月二十日開催された『第十一回北部九州三県合同通院送迎事業研修交流会』では、久しぶりに北部九州三県の皆様方にお会いでき、「さわやか」前理事長江頭様のご指導を受けながら、「ふれあい」事業所設立の頃の苦勞等が懐かしく思い起こされました。

研修交流会では、事前に答えていただいたアンケートで、『さわやか・ステツプ福岡・ほほえみ・ふれあい各事業所』の悩みとして、ほとんどの事業所が、運営費として継続して助成してもらっています。減額傾向の所もあります。

ただ、どの事業所も補助・助成をもらうために役員苦勞が多大了。財団等からいくらかの事業所が助成してもらっているが、単年度というのが多いです。事業所によっては、厳しい運営を乗り越えるため病院・企業・個人等から賛助会費・寄付金等をお願いしているようです。

利用料金（送迎料金）については、すべての事業所が距離制を採用しています。その他に、ボランティアさんの確保の苦勞などが伺えました。

簡単にまとめました。どの事業所も高齢化に伴う透析患者・難病患者の人が安心して通院し、治療ができるように送迎していただくボランティアさんともに日々努力されているのがわかります。頭が下がる思いです。

今年も、十千十二支で言えば壬辰（みづのえたつ）です。天にも昇る氣持ちで活躍されることをお祈り申し上げます。

